

授業科目	肢体不自由教育【講義】	開講時期	後期
担当教員	稲田 八穂	単位	2
授業の目的と概要	肢体不自由児・者の教育について知ることを目的とする。また、肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴を理解するとともに教育課程、指導や支援の概要について理解を深めていく。授業では肢体不自由児・者の教育の歴史と現状、肢体不自由児・者の基本的理解、教育課程、指導の概説を学び、指導と支援の概要を理解することを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴について説明できる。</li> <li>・肢体不自由児・者の教育について説明することができる。</li> <li>・肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について述べる事が出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	肢体不自由教育の現状に対する基本的理解	復習 肢体不自由教育の現状についてまとめる	
第2回	肢体不自由に対する基本的理解（医学的理解）	予習 資料を読んでおく 復習 医学的理解についてミニレポー	
第3回	肢体不自由に対する基本的理解（心理学的理解）	予習 資料を読んでおく 復習 心理学的理解についてミニレポ	
第4回	肢体不自由教育の歴史	予習 資料を読んでおく 復習 特別支援学校のホームページ検	
第5回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）	予習 資料を読んでおく 復習 乳幼児の指導法についてまとめ	
第6回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校）	予習 資料を読んでおく 復習 小学校の指導法についてまとめ	
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（中学校）	予習 資料を読んでおく 復習 中学校の指導法についてまとめ	
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（高等学校）	予習 資料を読んでおく 復習 高等学校の指導法についてまと	
第9回	教科指導（1）肢体不自由の学習における困難	予習 資料を読んでおく 復習 教科の指導法についてまとめる	
第10回	教科指導（2）障がい特性に対する工夫	予習 資料を読んでおく 復習 障がい特性の工夫を調べる	
第11回	教科指導（3）自立活動との関連から	予習 資料を読んでおく 復習 自利留活動についてミニレポー	
第12回	動作法について（1） からだところ	予習 資料を読んでおく 復習 動作法についてまとめる	
第13回	動作法について（2） 身体の動きを通した指導	予習 資料を読んでおく 復習 動作法についてミニレポート	
第14回	家族への支援	予習 資料を読んでおく 復習 家族の支援についてまとめる	
第15回	まとめ	予習 支援についてグループ討議 復習 支援のありかたについてまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ 定期試験		
レポート	25％ ミニレポート3回		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	5％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。		
教科書	使用しない		
指定図書	特になし		
参考図書	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』 慶応義塾出版会 (文部科学省)『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 海文堂出版		
オフィスアワー	月曜日、火曜日午前中	メールアドレス	

授業科目	学習・言語心理学【講義】	開講時期	前期
担当教員	榎 祐子	単位	2
授業の目的と概要	「学習」の領域では、生得的な基盤や過去の体験、さらに現在の環境といった様々な要因のもとで、人間の学習行動がどのように獲得されるのかという問題について理解を深める。我々が外界からの情報や刺激を取り入れたり、様々な学習を通して体験したことを、どのように知識や経験として蓄積しているのか学ぶことを目的とする。「言語」の領域では、人間が生まれてからどのように外界を理解し、他者とのコミュニケーションを図ることができるようになるのか、そのプロセスについて理解を深める。		
到達目標	①日常生活における学習行動を条件づけのプロセスを使い説明することができる ②経験を通じて、行動が変化する過程について説明することができる ③言語の習得過程や言語に関連する障害について説明することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス：授業の概要と受講にあたっての留意点の説明	学習・言語心理学のイントロダクションの復習	
第2回	学習心理学とは：学習とは、研究の方法	学習の定義についての復習	
第3回	古典的条件づけ：古典的条件づけの獲得、消去	古典的条件づけの生起のプロセスについての復習	
第4回	オペラント条件づけ①：オペラント条件づけの定義と分類	オペラント条件づけの生起のプロセスについての復習	
第5回	オペラント条件づけ②：オペラント条件づけの基礎、強化	オペラント条件づけの強化のプロセスについての復習	
第6回	社会的学習：観察学習	観察学習についての復習	
第7回	問題解決と推理	問題解決と推理の具体的例を考える	
第8回	まとめ① 学習	「学習」の全体像についての復習	
第9回	言語の獲得について：人間と言語の関係	人間と言語の関係についての復習	
第10回	言語獲得の過程① 喃語から意味獲得	言語獲得の初期のプロセスの復習	
第11回	言語獲得の過程② 文法獲得	言語獲得に関係する特性の復習	
第12回	言語理解：言語理解のプロセス、第2言語習得	言語理解のプロセスについての復習	
第13回	言語と思考	概念と言語についての復習	
第14回	言語と障がい	言語に関連した障がいについての復習	
第15回	まとめ② 言語	言語心理学の全体像についての復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ 学習、認知に関するテストを実施		
レポート	20％ 授業中にショートレポートを作成		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10％ 授業に関する質問やコメントの内容		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退中は慎むこと。簡単な実験を実施することがありますので、遅刻をしないよう留意してください。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	松尾 『認知と思考の心理学』 サイエンス社 山内・春木 『グラフィック学習心理学』 サイエンス社		
オフィスアワー	火曜日 5 限	メールアドレス	

授業科目	心理専門演習【演習】	開講時期	前期
担当教員	浅田(淳)・榊(祐)・針塚(進)	単位	2
授業の目的と概要	心理学やその関連領域に関するテーマを設定し、文献研究を通して学習を深化することができる。調べた成果を発表し、討論することができる。 個々の学生が選択したテーマを元に文献研究等で学習した成果をまとめ発表していく。その後、学生相互の討論や教員からの助言を通して、さらに深化させていく。		
到達目標	① 心理学やその関連領域について関心のあるテーマを設定することが出来る ② テーマに関する先行研究を検索し、収集することが出来る ③ 先行研究について調べたことをまとめて、発表することが出来る。 ④ 他者の発表に対して、創造的、論理的意見を述べ、議論を深めることが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活かし、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 担当教員の中には心理相談の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション	各自、関心のあるテーマについて考える	
第2回	テーマの設定の仕方	各自、関心のあるテーマについて考える	
第3回	文献検索の方法	資料収集、検討	
第4回	文献リストの作成、文献の読み方	資料収集、検討	
第5回	研究の方法、研究データの収集と分析について	資料収集、検討	
第6回	課題発表の準備、発表内容・方法の確認	文献をまとめ、レジュメを作成	
第7回	発表・討論① 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第8回	発表・討論② 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第9回	発表・討論③ 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第10回	発表・討論④ 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第11回	発表・討論⑤ 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第12回	発表・討論⑥ 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第13回	発表・討論⑦ 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第14回	発表・討論⑧ 担当者による発表、討論	レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第15回	まとめ	復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。		
小テスト等	なし		
成果発表	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。		
受講態度他	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の出席は必須条件、遅刻も厳禁 資料の丸写し、インターネットを用いてのコピー&ペーストは厳禁 自分の見解を加味した上で資料を作成し発表を行う。		
教科書	各担当教員による		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	浅田:火を除く昼休、大霧:火4 榊:火5、針塚水4	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	心理学実験【実験】	開講時期	後期
担当教員	榊 祐子・安藤 満代	単位	2
授業の目的と概要	人間の行動特性を客観的に理解することを目標として、学習、知覚、認知、記憶といった心理学の各分野における基礎的な実験を体験し、心理学における実験レポートの書き方を学ぶ。実験の目的、手続きなどについての講義の後5、6名程度の小グループにわかれ、コンピュータや質問紙等を用いて実験を行なう。結果の処理や実験技法を習得した後、実験レポートを提出することが課題となる。また、最新の心理学の分野でどのような実験が行なわれているか、参加者として体験する機会も設ける予定である。本授業では、心理学研究法の一つである実験という手法を用いて、心理・社会的諸問題における行動特性などを客観的データを収集することで説明することを目的とする。		
到達目標	①心理学における基本的な実験の流れ（目的、方法、結果、考察）を説明することができる ②心理学実験を実験者としてデータを測定する、また被験者として課題を実施することができる ③測定したデータを結果としてまとめ、考察を行い、レポートを作成することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 担当教員の中には心理相談の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学実験とは①：心理学実験の概要	心理学実験のイントロダクションについての復習	
第2回	心理学実験とは②心理学研究法について	様々な心理学研究法の整理	
第3回	心理学実験とは③心理統計法の基礎	心理統計法の基礎についての復習	
第4回	知覚実験1-1 ミュラー・リヤー錯視（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第5回	知覚実験1-2 ミュラー・リヤー錯視（データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第6回	知覚実験2-1 触2点閾（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第7回	知覚実験2-2 触2点閾（データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第8回	認知実験1 ストループ課題（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第9回	認知実験2 自由再生法（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第10回	実験のまとめ①	レポート作成の復習	
第11回	学習実験1 分散・集中学習（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第12回	学習実験2 鏡映描写（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第13回	行動実験 一対比較法（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第14回	最新の心理学実験の動向 様々な分野における最新の心理学実験を体験	課題（レポート）	
第15回	実験のまとめ②	レポート作成と実験方法についての振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80% 毎回の実験後にレポートを作成		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 授業に関するショートレポートを提出		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	小グループに分かれて実験を実施、データ測定、レポート作成を行う。実験に参加しなければ、レポートを作成、提出できないため、毎回の出席が非常に重要である。 クラスごとの開講になるため、実験の実施順序は前後することがある。 授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退回は慎むこと。		
教科書	使用しない。資料はプリントにて配布する。		
指定図書	特になし		
参考図書	心理学実験指導研究会 『実験とテスト＝心理学の基礎 実習編』 培風館 心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 二瓶社		
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス	

授業科目	発達臨床演習 B【演習】		開講時期	後期
担当教員	榊(祐)・針塚(進)		単位	2
授業の目的と概要	人の生涯発達、それぞれの発達段階における特徴をしめすと同時に、それに関連した様々な問題も生じる。現代の日本社会では、少子高齢化や環境の変化がみられ、人間関係や家族にも影響を与えている。このような現状を理解し、具体的にどのような問題が生じ、支援が行なわれているのか検討する。最終的に、地域における支援策について、実践計画を立てることを目的とする。生涯発達の特徴や問題について再確認し、現代社会における臨床的実践活動について検証する。それらの活動を通して、生涯発達に応じたよりよい支援のあり方を具体的に説明できる力を身につける。			
到達目標	①現代社会における生涯発達に関する問題や支援の現状について調べることが出来る ②地域社会（福岡やその近辺）で実際にどのような支援が行なわれているのか調べ、問題点や課題を具体的に説明することが出来る			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第 1回	オリエンテーション：授業の構成、進め方について	授業のイントロダクションについて復習		
第 2回	文献検索、論文収集：文献検索や論文収集の方法についての確認	文献検索		
第 3回	研究計画作成：テーマの選択とグループ分け、発表までの計画作成	発表にについての研究計画作成		
第 4回	文献ト講読・発表①	予習（発表予定のトピックの講読）		
第 5回	文献講読・発表②	予習（発表予定のトピックの講読）		
第 6回	文献講読・発表③	予習（発表予定のトピックの講読）		
第 7回	文献講読・発表④	予習（発表予定のトピックの講読）		
第 8回	文献講読・発表⑤	復習（発表予定のトピックの講読）		
第 9回	支援プロジェクト作成①	プロジェクトに関するテーマ、問題点、課題の整理		
第10回	支援プロジェクト作成②	プロジェクトに関する実践例や現状の整理		
第11回	支援プロジェクト作成③	発表資料の作成		
第12回	発表・討論① 自分たちが出来る支援プロジェクト	支援プロジェクトに関する振り返り		
第13回	発表・討論② 自分たちが出来る子育て支援プロジェクト	子育て支援プロジェクトに関する振り返り		
第14回	発表・討論③ 自分たちが出来る支援プロジェクト	支援プロジェクトに関する振り返り		
第15回	まとめ：各研究テーマの達成度や課題について検討	達成度や今後の課題についての振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 発表した内容についてレポートにまとめる			
小テスト等	-			
成果発表	40％ 乳幼児期に関するテーマについての発表			
受講態度他	10％ 発表に対する質疑応答への態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退席は慎むこと。			
教科書	適宜紹介			
指定図書	指定なし			
参考図書	指定なし			
オフィスアワー	各教員の他科目シラバスを確認	メールアドレス	各教員の他科目シラバスを確認	

授業科目	人間関係総合演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・渋田(登)・浅田(淳)・大霧(香)・榊(祐)・森田(理)・宇治(和)・針塚(進)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>心理学やその関連領域に関するテーマ設定し、文献研究を通して学習を深化することができる。調べた成果を発表し、討論することができる。</p> <p>個々の学生が選択したテーマを元に文献研究等で学習した成果をまとめ発表していく。その後、学生相互の討論や教員からの助言を通して、さらに深化させていく。</p>			
到達目標	<p>① 心理学やその関連領域について関心のあるテーマを設定し、先行研究の文献検索が適切に行なえる</p> <p>② 先行研究をまとめ、効果的な発表できる。</p> <p>③ 卒業ゼミナールに向けて、問題を解決、考察するための研究計画を立てることができる</p> <p>④ 他者の発表に対して創造的、論理的意見を述べ、議論を深めることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション	各自研究テーマについて調べておく。		
第 2回	テーマの設定	テーマに関する先行研究の検索		
第 3回	先行研究の整理	先行研究の講読		
第 4回	発表・討論①： 先行研究の整理、問題点の明確化	先行研究についてまとめたレジュメを作成		
第 5回	発表・討論②： 先行研究の整理、問題点の明確化	先行研究についてまとめたレジュメを作成		
第 6回	発表・討論③： 先行研究の整理、問題点の明確化	先行研究についてまとめたレジュメを作成		
第 7回	研究計画の作成	研究テーマを具体化するための計画を作成		
第 8回	発表・討論①： 研究計画について、途中経過の発表、検討	事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第 9回	発表・討論②： 研究計画について、途中経過の発表、検討	事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第10回	発表・討論③： 研究計画について、途中経過の発表、検討	事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第11回	発表・討論④： 研究計画について、途中経過の発表、検討	事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第12回	発表・討論⑤： 研究計画について、途中経過の発表、検討	事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第13回	発表・討論⑥： 研究計画について、途中経過の発表、検討	事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第14回	発表・討論⑦： 研究計画について、途中経過の発表、検討	事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割 合 ( % ) 、 種 類 ・ 評 価 基 準 など			
定期試験	なし			
レポート	40% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講態度他	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の出席は必須条件、遅刻も厳禁 資料の丸写し、インターネットを用いてのコピー&ペーストは厳禁 自分の見解を加味した上で資料を作成し発表を行う。			
教科書	各担当教員による			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	浅田:火を除く昼休、酒井:火昼休、渋田:水4、大霧:月2、,榊:火5、森田:火2、宇治:火水昼休、針塚水2	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	臨床心理学基礎実習【実習】		開講時期	前期
担当教員	酒井(均)・森田(理)・岩男(尚)		単位	1
授業の目的と概要	<p>1. 集団性精神療法のひとつである心理劇での役割体験を通し、自発性の向上や自己洞察を深める。  2. 表現療法を体験し、自己理解と他者理解を深める。  3. SSTやハンディキャップオリエンテーションを通して、社会性の技法や障害に対する洞察を深める。</p> <p>受講生を3つのグループに分け、それぞれのグループごとに一人ずつ教員がテーマをもって実習に当たる。3人の教員がローテーションしていく。テーマは心理劇、箱庭、SSTなどで実技を用いた体験型の授業である。</p>			
到達目標	<p>1. 対人援助に役立つ基本的な技法を身につける。  2. 自己洞察を深め、お互いに意見を交換できる。  3. 社会性を育てる技法の習得と障害に対する洞察ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。  担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	心理劇とは 役割を通しての自己理解・他者理解	配布資料の通読		
第2回	心理劇体験 ロールプレイング体験	体験についてのレポート作成		
第3回	心理劇体験 子どもの頃の思い出	体験についてのレポート作成		
第4回	心理劇体験 季節の行事	体験についてのレポート作成		
第5回	心理劇体験 マジックショップ	5回の体験を通して、まとめのレポート作成		
第6回	箱庭玩具による自己紹介	箱庭体験についてのレポート作成		
第7回	スキイグル	スキイグル体験についてのレポート作成		
第8回	グループによる箱庭制作	箱庭体験についてのレポート作成		
第9回	コラージュ制作① 気になる写真を切り取ろう	コラージュ体験に関するレポート作成		
第10回	コラージュ制作② 貼り付けて作品を作ろう	5回の体験を通し、てまとめのレポート		
第11回	ゲームによる自己発見・他者理解	レポート作成		
第12回	ハンディキャップオリエンテーション① 感覚障害を中心に	レポート作成		
第13回	ハンディキャップオリエンテーション② 発達障害を中心に	レポート作成		
第14回	SST① SSTとは、幼児SST、小学校SST、中学校SST	レポート作成		
第15回	SST② サバイバルスキル	レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 各教員による			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 各教員による			
受講態度他	40％ 各教員による			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の出席は必修、遅刻も厳禁。  グループでの協力が必要な回も多くあります。  また、実技を行うときは、服装、靴などに注意してください。詳しくは授業内でお知らせします。</p>			
教科書	なし 各教員が資料を配布します			
指定図書	なし			
参考図書	各教員による			
オフィスアワー	酒井：水曜日12：30-13：00、森田：月曜日休み、岩男：月曜日休み	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	LD等、重度・重複障がい者の心理と教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症など、通常学級に在籍しているが配慮の必要な児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなることを目的とする。</p> <p>あわせて重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなることを目的とする。</p> <p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法を具体的に学び、それぞれのケースではどのように考えていったよいかを考えていきます。</p> <p>重度・重複障がいの児童・生徒では、感覚運動的な教育支援を中心に具体的な方法を検討していきます。</p>			
到達目標	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなる。</p> <p>重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	オリエンテーション	ケース研究		
第 2回	LDについて 1 その特徴	ケース研究		
第 3回	LDについて 2 アセスメントについて	ケース研究		
第 4回	LDについて 3 アセスメントを生かした教育支援	ケース研究		
第 5回	ADHDについて 1 その特徴	中間レポート作成		
第 6回	ADHDについて 2 行動変容のための支援 ABA	ケース研究		
第 7回	ADHDについて 3 行動変容のための支援 ABAの実施	ケース研究		
第 8回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 1 その特徴	ケース研究		
第 9回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 2 ソーシャルスキルトレーニングについて	ケース研究		
第10回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 3 サバイバルトレーニングについて	中間レポート作成		
第11回	発達障がいの総合的支援について その1	ケース研究		
第12回	発達障がいの総合的支援について その2	ケース研究		
第13回	重度・重複障がいについて 1 その特徴	ケース研究		
第14回	重度・重複障がいについて 2 教育的支援	ケース研究		
第15回	保護者への教育的支援について	最終レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間レポート 各30% 最終レポート40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も見ます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻は厳禁、積極的に発言参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12:30~13:00	メールアドレス		

授業科目	障害者・障害児心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	障害者・障害児の心理的特徴を理解し、この後のこれらの人の支援を含めた学習の基礎を身につけることを目的とします。障害は多様で、それぞれの障害によって発達、心理的特徴があり、それを理解した上で接したり、支援することが大切です。さらに障害のある人が自立していくために周囲が小さいころからどのようなことについて配慮していくのか知っておくことが大切です。			
到達目標	それぞれの障害における発達の特徴、心理的特徴を説明できる。 障害者の自立に向けて周囲の配慮事項を説明できる。 障害者の家族への支援の大切さが理解できている。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	ショートレポート		
第2回	障害の理解とその方法	ショートレポート		
第3回	知的障害の理解	ショートレポート		
第4回	自閉スペクトル症 (ASD) の理解 (1)	ショートレポート		
第5回	自閉スペクトル症 (ASD) の理解 (2)	ショートレポート		
第6回	注意欠如/多動症 (ADHD) の理解	ショートレポート		
第7回	限局的学習症 (LD) の理解	ショートレポート		
第8回	言葉の障害の理解	ショートレポート		
第9回	視覚障害の理解	ショートレポート		
第10回	聴覚障害の理解	ショートレポート		
第11回	肢体不自由の理解	ショートレポート		
第12回	精神障害の理解 1 (統合失調症、双極性障害、その他)	ショートレポート		
第13回	障精神障害の理解 2 (適応障害、摂食障害、人格障害、その他)	ショートレポート		
第14回	障害者の福祉 (制度、関係機関) と心理職の役割	ショートレポート		
第15回	家族支援	最終レポート		
成績評価	割合 ( % ) 、 種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業の終わりにショートレポート 30 % 最終レポート 70 %			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	参考にします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻3回は欠席1階としてみなします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	臨床心理実習【実習】	開講時期	後期
担当教員	酒井 均・森田 理香・宇治 和貴	単 位	1
授業の目的と概要	<p>心理職が働くさまざまな現場を見学し、場合によっては実際にその業務に参加し、心理職の役割と現場の状況を理解し、自分の将来的な展望を持つことができる。</p> <p>さまざまな心理職がはたらく現場（児童相談所、保健所、病院、児童施設、療育施設など）を見学したり、心理職にインタビューしたりする。場合によってはその業務の一部に参加をする。その後、それらをレポートにまとめ発表する。</p>		
到達目標	<p>心理職の役割と現場の状況を説明できる。</p> <p>将来的な展望をきちんと説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション	見学先調査	
第2回	見学	報告書まとめ	
第3回	見学	報告書まとめ	
第4回	見学	報告書まとめ	
第5回	見学	報告書まとめ	
第6回	見学	報告書まとめ	
第7回	見学	報告書まとめ	
第8回	中間報告会	見学先調査	
第9回	見学	報告書まとめ	
第10回	見学	報告書まとめ	
第11回	見学	報告書まとめ	
第12回	見学	報告書まとめ	
第13回	見学	報告書まとめ	
第14回	見学	報告書まとめ	
第15回	最終報告会	最終レポート	
成績評価	割 合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70%		
小テスト等	なし		
成果発表	20%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この授業は将来心理専門職に就職するという固い意志のある学生のために開講しています。興味本位では受講できません。また、見学が中心のため時間外の授業がほとんどになります。しかも、見学先の状況によっては、いつ見学になるかもわかりません。このため筑女ネット、掲示等のチェックは怠らないように注意してください。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	心理演習 I【演習】	開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・大齋(香)・榊(祐)・森田(理)	単 位	2
授業の目的と概要	心理に関する支援を要する者に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識、及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）等を通して、心理師として人と関わる際にどのような視点や態度、手続き等が必要かについて学ぶ。		
到達目標	①心理的支援を要する者に対するカウンセリングの基本的な方法を修得する ②実践場面を想定した心理的支援について、提案することが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	カウンセリングの基本的知識と技能：コミュニケーション	コミュニケーションの特徴と技法についての復習	
第2回	カウンセリングの基本的知識と技能：心理検査①	心理検査の特性と手続きについての復習	
第3回	カウンセリングの基本的知識と技能：心理検査②	心理検査の特性と手続きについての復習	
第4回	カウンセリングの基本的知識と技能：心理面接①	心理面接の注意点や流れについての復習	
第5回	カウンセリングの基本的知識と技能：心理面接②	心理面接の進め方についての復習	
第6回	カウンセリングの基本的知識と技能：地域支援①	地域支援の種類についての復習	
第7回	カウンセリングの基本的知識と技能：地域支援②	地域支援の方法についての復習	
第8回	ハンディキャップ体験①	ハンディキャップ体験についての振り返り	
第9回	ハンディキャップ体験②	ハンディキャップ体験についての振り返り	
第10回	グループアプローチ①	グループアプローチの方法についての復習	
第11回	グループアプローチ②	グループ体験についての振り返り	
第12回	箱庭療法①	箱庭療法の特徴についての復習	
第13回	箱庭療法②	箱庭療法の分析についての復習	
第14回	リラクゼーション①	リラクゼーションの方法についての復習	
第15回	リラクゼーション②	リラクゼーション体験についての振り返り	
成績評価	割 合（％）、種 類・評 価 基 準 等		
定期試験	なし		
レポート	60% 授業での体験学習についてのレポート		
小テスト等	20% 授業中のショートレポート		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 講義に対する積極的態度、理解度をレポートにて確認		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻や欠席のないよう努めること 体験学習には積極的に参加すること		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	知的障がい者の心理・生理・病理【講義】	開講時期	後期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、生理・病理といった器質的要因をふまえながら、知的障がい児・者の発達や行動特徴、ライフステージに応じた支援について理解することを目的とします。さらに、知的障がいとの併存が多い自閉症スペクトラム障害、肢体不自由、感覚障害について理解を深めます。最後に、環境との関わりの中で生じる問題として二次障がいについて学び、その予防としての環境調整や支援について考察できることを目的とします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階ごとに知的障がい者の心理・行動特性について述べることができる。</li> <li>2. 自閉症スペクトラム障がいを併存している知的障がい者の行動特性とその支援について述べるができる。</li> <li>3. 一次性併存障がいと二次障がいについて簡潔な文章で説明することができる。</li> <li>4. ライフステージに応じた支援について述べるができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業の概要	・ DVD視聴	復習、中間レポートのための図書を探す	
第2回 知的障がいとは		中間レポートのための図書を探す	
第3回 乳幼児期の発達過程とアセスメント		中間レポートのための図書を読む	
第4回 幼児期の療育、児童期の発達過程と支援		中間レポートのための図書を読む	
第5回 ダウン症候群の発達の特徵		中間レポートのための図書を読む	
第6回 ウィリアムズ症候群の発達の特徵		中間レポートのための図書を読む	
第7回 自閉スペクトラム症(1) : 自閉スペクトラム症とは、乳幼児期の行動特徴		中間レポートを作成する	
第8回 自閉スペクトラム症(2) : 学童期の行動特徴		中間レポートを作成する	
第9回 自閉スペクトラム症(3) : こだわり行動とパニックへについて		中間レポートを作成する	
第10回 : 就労に向けて、職場でみられる問題、DVD視聴		障がい者の就労の現状について情報収集する	
第11回 青年以降の発達過程と支援、強度行動障害		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第12回 肢体不自由者の心理・生理・病理、DVD視聴		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第13回 聴覚障がい者と視覚障がい者の心理・生理・病理		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第14回 1次性併存障がいと 二次性併存障がい		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第15回 親ときょうだいこととの障がい		知的障がい者の家族支援について調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験		
レポート	30% 中間レポート : 障がい者または、障がい者の家族によって書かれた本を読み、レポートを作成する。 A4用紙2枚 図書リストは授業中に配布、筑女ネットにも掲示する。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	中間レポートは、障がい当事者の視点から障がいを理解するために課しています。図書リストの本はどれも読みやすい本なので、早めに選び読むことを勧めます。授業内容の理解が深くなると思います。		
教科書	毎回資料を配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	梅谷忠男・生川善雄・堅田明義(編著) 『特別支援児の心理学』 北大路書房 図書リストは授業で配布し、筑女ネットにも掲載する		
オフィスアワー	水曜日 4 講目	メールアドレス	

授業科目	心理基礎ゼミナール【演習】	開講時期	後期
担当教員	浅田(淳)・浜田(登)	単位	2
授業の目的と概要	「心理基礎ゼミナール」は、前期の「基礎ゼミナール」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で心理学を中心とした内容を、学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」「レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) ①多様な価値観を尊重し、他者とながらするための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) ②獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) ③社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 関連科目：基礎ゼミナールⅠ、人間関係総合演習、卒業研究  担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：前期の様々な講義を聞いた上での自分の中での問題点を、アンケートの形で収集し議論する。		自分なりに大学での勉強の仕方に関する問題点を反省してみる。	
第2回：様々な講義の受講に関するアンケートから分かる問題点に関して、解決策を考える。		問題に対する解決策を自分なりに考えてみる。	
第3回：前期の発表とレポートを振り返り、難しかった点などを取り上げて、改善点などを検討する。レポートの課題の提示		自分なりに後期のレポートの課題を探す。	
第4回：講師が、自分の読書体験を紹介しつつ、読書の魅力について考え、読書課題（本の推薦）を説明する。		各自、読みたい本を選び、読書を開始する。	
第5回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ。（合同）		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第6回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ？（合同）		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第7回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ（合同）		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第8回：第4回講義で提示された課題に対する解答から優秀作品を選び、本の魅力についてプレゼンしてもらう。		プレゼンされた内容について考え、改善点などを各自検討する。	
第9回：前期で行った発表に関する反省点についてアンケートを行い、問題点を集約し議論する。		具体的にプレゼンの仕方について考えて、レポートの形で次週提出	
第10回：よりよい発表（プレゼン）の仕方について、具体例（レポートから抽出）を挙げながら皆で議論する。		各自、自分なりにプレゼン方法についてさらに工夫してみる。	
第11回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？（合同）		自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。	
第12回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？（合同）		自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。	
第13回：大学での今後の生活から卒業後の人生までも含めて、自分の将来のイメージについて、皆で考えてみる。（合同）		自分の将来の姿について、幾つかの観点から思いを巡らせてみる。	
第14回：第13回の講義を踏まえて、大学の四年間について、自分なりの目標を立ててみる。		これからの大学生活でやってみたいこと取り組んでみたいことを考える	
第15回：第14回講義の成果を踏まえて、大学四年間の自分なりのポートフォリオを作成する。		第3回講義で設定した課題についてレポートを作成する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50%		
小テスト等	20%		
成果発表	20%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	参加型の授業なので、積極的に授業に参加することに心がけること。		
教科書	『よくわかる学びの技法』田中共子編（ミネルヴァ書房）		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

<b>授業科目</b>	知的障がい・発達援助の技法【講義】		<b>開講時期</b>	前期
<b>担当教員</b>	森田 理香		<b>単 位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	本授業では心身に障がい、主に知的障がい・発達障がいをもつ幼児、児童、または生徒に対する援助について学ぶ。まずは、心身に障がいをもつ者へ援助を行うためには、対象となる児童、生徒の特徴を正確に理解することが必要であるため、子どもに関するアセスメントについて学ぶ。また、障がい児者の特性に応じた様々な援助技法について、それぞれの特徴や有効性、対応方法について理解する。 さらに、実際の現場で行われている援助について学び、実際に適用することができるようになることが目的である。			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>心身に障がいがある幼児、児童又は生徒へのアセスメントについて説明することができる。</li> <li>さまざまな発達援助の技法について、その特徴や有効性について説明することができる。</li> <li>障がい児者に対して、発達援助の技法を実施することができる。</li> </ol>			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
<b>授業計画</b>	<b>授 業 内 容</b>		<b>授 業 外 学 修 等</b>	
第 1回	オリエンテーション 障がいの種類と特徴		障がいを持ちながら生活をするとはどのようなことか考えをまとめる	
第 2回	障がい児者のアセスメントの理論と実際		心理アセスメントについての復習	
第 3回	応用行動分析 理論① 行動のとらえ方		復習：“気になる行動”を行動レベルで書き起こす	
第 4回	応用行動分析 理論② 指導法		復習：“気になる行動”について機能的に行動を理解し、書き出す	
第 5回	応用行動分析 実際① 行動の強化子		復習：“気になる行動”の強化子について復習する	
第 6回	応用行動分析 実際② 指導案の作成		復習：応用行動分析を使って、指導案を作成する	
第 7回	応用行動分析に関するまとめ、ペアレントトレーニング		レポート作成：自分の気になる行動の改善計画案の作成	
第 8回	臨床動作法① 理論		復習：臨床動作法の理論について振り返る	
第 9回	臨床動作法② 実際		レポート作成：動作法体験について記述する。さらに、その考察を行う。	
第10回	TEACCHプログラム		復習：TEACCHプログラムの概要について振り返り	
第11回	構造化① 理論		復習：構造化の種類、具体的な方法について復習する	
第12回	構造化② 実際		レポート作成：日常の中にある構造化をいくつか見つけて、レポートを作成	
第13回	ソーシャルストーリーズ 理論		復習：ソーシャルストーリーズの理論について復習	
第14回	ソーシャルストーリーズの作成		課題提出：自分でテーマを考えたソーシャルストーリーズを作成し提出	
第15回	まとめ		最終レポートの作成	
<b>成績評価</b>	<b>割合（％）、種類・評価基準など</b>			
定期試験	なし			
レポート	100% 授業中に指示します テーマごとに4～5回レポート課題を出します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	積極的な態度で学ぶことを求めます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実技を含む授業なので、遅刻厳禁。 臨床動作法の回は動きやすい服装で参加してください。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	月曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	心理的アセスメント I 【演習】	開講時期	前期
担当教員	森田 理香	単位	2
授業の目的と概要	心理臨床においては、こころに悩みや課題を抱えた人に対する援助の方針を決定するために、対象となった人を客観的に理解することが求められる。対象者を理解するために行う一連の作業をアセスメントという。本講義ではアセスメントに必要な基本的な姿勢、そして、人を理解するための技法について理解を深める。さらに、子どもの特徴によってどのアセスメント技法が有効であるかについて判断できるようにする。乳幼児・児童を対象とした発達検査や知能検査の実技を通して、これらの技術を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人を理解する上で必要な基本姿勢について説明することが出来る。</li> <li>2. アセスメントの方法（観察法、面接法、テスト法）について、簡潔な文章で説明することが出来る。</li> <li>3. 発達検査、知能検査の種類、特徴について説明することが出来る。</li> <li>4. 対象者の特徴やアセスメントの目的に応じて、適切な検査を判断することが出来る。</li> <li>5. いくつかの発達検査、知能検査をマニュアルを見ながら実施することが出来る。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第 1回	心理アセスメントとは：授業のねらい、課題の提示	配付プリントを熟読し、共感した点、疑問に思った点をあげる	
第 2回	人が人を「理解」すること：他者理解の基本姿勢	ミニレポート：人が人を理解することについてまとめる	
第 3回	心理アセスメントの目的・方法：心理士によるアセスメントの適用	配付プリント「心理アセスメントとは何か」を熟読する	
第 4回	心理検査の種類：各種心理検査の特徴・対象	心理検査の種類について復習	
第 5回	観察法：プロトコル体験 グループワーク	レポート作成：プロトコル体験についてまとめる	
第 6回	面接法：ロールプレイ体験（面接の構造化） グループワーク	レポート作成：ロールプレイ体験を通しての自己・他者への気づきについて	
第 7回	発達検査：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 グループワーク	レポート作成：乳幼児の発達と臨床的視点について	
第 8回	発達検査：乳児の発達の実際	乳幼児の発達支援について復習	
第 9回	乳幼児健診における心理士の役割	配布資料を熟読し、実際の臨床場面についての視点を養う	
第10回	発達検査・知能検査：新版K式発達検査	レポート作成：乳幼児の行動観察の視点についてまとめる	
第11回	知能検査：ウェクスラー式知能検査	ウェクスラー式知能検査について復習	
第 1 2 回	知能検査：田中ビネー知能検査	田中ビネー知能検査について復習	
第13回	田中ビネー知能検査V①：実施方法の確認 2人1組ペアでの実習	田中ビネーVのマニュアルを熟読する	
第14回	田中ビネー知能検査V②：知能検査の実施 2人1組ペアでの実習	田中ビネー知能検査Vの検査用紙の整理	
第15回	田中ビネー知能検査V③：知能検査の実施 2人1組ペアでの実習	提出課題：知能検査の採点、行動観察記録を記述する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100％ 5～6回、レポート課題を提示します		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし 積極的な態度で受講すること		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループでの学習を行いますので、遅刻、欠席に関しては厳しく対応します。主体的、協力的に授業に参加することを求めます。		
教科書	プリント配布		
指定図書	特になし		
参考図書	松原達哉・楡木満生 共編『臨床心理アセスメント演習』培風館		
オフィスアワー	月曜日休み	メールアドレス	

授業科目	感情・人格心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、日常生活において話題として取り上げられることが多い「感情」や「人格」についての心理学的知見や、研究成果に関する理解を深め、感情心理学、人格心理学に関する基本的な理論と応用的な知識について習得することを目的とする。具体的には、感情の理論、感情が行動に及ぼす影響について理解する。さらに、人格の概念、人格の形成過程、人格の理論、人格の障害について理解する。また、感情や人格を測定する方法についても学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主要な感情理論、人格理論について説明できる</li> <li>2 感情が行動に及ぼす影響について説明できる</li> <li>3 人格の概念について説明できる</li> <li>4 人格の形成過程について説明できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、	感情についてのミニレポート		
第2回	心の深層へのアプローチ	配付プリント①、②の復習		
第3回	感情の理論	プリント①、②、③のまとめレポート		
第4回	愛着理論	配付プリント④の復習		
第5回	情動コミュニケーション	配付プリント⑤の復習		
第6回	人の人格形成にかかわる要因	プリント④、⑤、⑥のまとめレポート		
第7回	人格の類型論・特性論	配付プリント⑦の復習		
第8回	人格における男女差	配付プリント⑧の復習		
第9回	ストレスと感情の疾患	プリント⑦、⑧、⑨のまとめレポート		
第10回	ストレスとパーソナリティ変容	配付プリント⑩の前半の復習		
第11回	ストレス障害	配付プリント⑩の後半の復習		
第12回	パーソナリティの正常と異常	配付プリント⑩の前半の復習		
第13回	アイデンティティの確立と病理	配付プリント⑩の後半の復習		
第14回	感情・人格の測定方法	プリント⑩、⑪のまとめレポート		
第15回	全体のまとめ	全体のまとめレポート		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 持ち込み不可			
レポート	20％ 筑女ネットを用いて、授業のまとめを5回提出してもらう予定です。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	人の迷惑にならないように、授業中は私語を慎んでください。			
教科書	特になし 毎回資料を配布します			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に紹介します。			
オフィスアワー	月曜 昼休み	メールアドレス		

授業科目	公認心理師の職責【講義】		開講時期	後期
担当教員	森田 理香・針塚 進		単位	2
授業の目的と概要	<p>本科目では心理専門職の国家資格である公認心理師を目指す人に必要な知識や価値観について取り扱う。具体的には、公認心理師にとって最も重要な法案である公認心理師法を通して公認心理師の役割や、公認心理師の法的義務及び倫理及び情報の適切な取り扱いについて理解すること、さらに医療保健、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務や他職種連携及び地域連携について理解することである。これらの学びを通して、国民の心の健康の保持・増進に寄与できる公認心理師になるための基礎的な知識を身につけることを授業の目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公認心理師の役割について述べる事が出来る</li> <li>2. 公認心理師の法的義務及び倫理について説明する事が出来る</li> <li>3. 心理に関する支援を要する者等の安全の確保について示す事が出来る</li> <li>4. 情報の適切な取り扱いについて説明する事が出来る</li> <li>5. 保健医療、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務について説明する事が出来る</li> <li>6. 自己課題発見・解決能力を身につけている</li> <li>7. 生涯学習への準備が出来ている</li> <li>8. 他職種連携及び地域連携について説明する事が出来る</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」この科目は公認心理師受験資格における必修科目である。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	公認心理師法を調べ、通読する		
第2回	公認心理師の役割	公認心理師の役割について復習する		
第3回	公認心理師の法的義務	公認心理師の法的義務について復習する		
第4回	公認心理師の倫理	公認心理師の倫理について復習する		
第5回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保	心理に関する支援を要する者等の安全の確保について復習する		
第6回	情報の適切な取り扱いについて	情報の適切な取り扱いについて復習する		
第7回	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務について復習する		
第8回	福祉分野における公認心理師の具体的な業務	福祉分野における公認心理師の具体的な業務について復習する		
第9回	教育分野における公認心理師の具体的な業務	教育分野における公認心理師の具体的な業務について復習する		
第10回	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務について復習する		
第11回	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務について復習する		
第12回	支援者としての自己課題発見・解決能力	支援者としての自己課題発見・解決能力について復習する		
第13回	生涯学習への準備	生涯学習への準備について復習する		
第14回	多職種連携と地域連携	多職種連携と地域連携について復習する		
第15回	全体のまとめ	授業で学んだことを振り返り、復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 3～4回レポートを提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	公認心理師受験資格における必修科目になります			
教科書	野島一彦、繁樹算男監修「公認心理師の基礎と実践 公認心理師の職責」遠見書房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	病弱者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	病弱者の心理的な特徴や生理・病理的な特徴を知ることが目的とする。さらに病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学習する。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援について学習する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱者の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。</li> <li>・病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。</li> <li>・病弱者に対する基礎的な対応を述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	病弱者とは	授業内容の復習（病弱者の定義）		
第2回	極低出生体重児の心理・生理・病理（1） 極低出生体重児とは	授業内容の復習（極低出生体重児について）		
第3回	極低出生体重児の心理・生理・病理（2） ハイリスク児への支援	ミニレポート①（講義中のDVDについて考えたこと）		
第4回	腎疾患の心理・生理・病理（1） 腎疾患とは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習		
第5回	腎疾患の心理・生理・病理（2） 腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 心疾患について調べる		
第6回	心疾患の心理・生理・病理 心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 糖尿病について調べる		
第7回	小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理	ミニレポート③（講義中のDVDについて考えたこと） 授業内容の復習		
第8回	てんかんの心理・生理・病理（1） てんかんとは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 てんかんについて調べる		
第9回	てんかんの心理・生理・病理（2） 発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 小児がんについて調べる		
第10回	小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に）	ミニレポート④（講義中のDVDを見て考えたこと）		
第11回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1） ぜんそくを中心に	アレルギーについて調べる		
第12回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2） 食物アレルギーを中心に	アレルギーについて調べる		
第13回	病弱者の家族への支援（1） 家族の思い	配布プリント（病弱者の家族）通読		
第14回	病弱者の家族への支援（2） 家族への支援	ミニレポート⑤（配布プリント、DVDを見て考えたこと）		
第15回	まとめ	復習、期末レポートへの準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55% 期末レポート 40% ミニレポート（5回）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5% 受講態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布しますので、ファイルを用意して下さい。 事前に授業計画に書かれている疾患について自己学習をして下さい。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	谷川弘治・駒松仁子、松浦和代・夏路瑞穂編 『病気の子どもの心理社会的支援入門』 ナカニシヤ出版 小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著 『特別支援教育に生かす病児の生理・病理・心理』 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	前期 月曜日4講目・木曜日昼休み 後期 金曜日2講目・木曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	健康心理学【講義】	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	この科目は、発達支援・発達臨床の具体的な援助方法や実践的なアプローチの一つとして、健康心理カウンセリングの基本について理解することを授業の目的としている。 人が病気になるたり、健康でいることができたりすることについて、身体的側面からだけ捉えるのではなく、心理・社会的側面も含めた「全人的」な立場から捉えようとする「健康心理学」の基本的考え方やアプローチ法を学習する。その際、人間の弱さよりも、ストレスや過酷な状況のなかにあっても、病気になるはず健康を維持し続ける人間の「強さ」やポジティブな側面に注目をする。WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について解説したあと、ストレスと健康の関係、健康行動と疾病予防の関係について考察を深める。おそらく、授業終了時には、健康と病気についての、今まで持っていた考え方が、大きく変わることになっているのではないかと考える。		
到達目標	①WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について説明できる。 ②ストレスと健康の関係について説明することができる。 ③健康リスク要因としてのパーソナリティ特性について、例を挙げて説明できる。 ④健康心理学が果たすヘルスケアシステムにおける役割を説明できる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) ①-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 関連する科目：臨床心理学概論、カウンセリング概論 この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 健康とウェルビーイング 健康心理学とは何か、健康の定義、医療制度のモデルとその限界、生物心理社会モデルの提		WHOの健康の定義と、それがその後どのように再検討されてきたかを調べる	
第2回 健康な社会づくり 現代社会の健康観、学校・社会・地域の健康づくり活動、健康づくりのための政策・法律・		TVや新聞、雑誌等の健康と関係した広告、出版物等について調べる	
第3回 現代社会とストレス ストレスの仕組み、ストレスの感じ方と個人差、効果的なストレス対処法		現代社会に溢れるストレスサーについて、どのようなものがあるか調べる	
第4回 健康な食生活 日本人の食生活の現状、食行動のメカニズム、食行動の発達と病理		自分の一週間の食生活について記録する	
第5回 運動と休養による健康づくり 日本における身体活動・運動と睡眠の現状と課題 等		身近な地域で行われているスポーツイベントについて調べ、一覧表を作る	
第6回 健康リスクへのアプローチ 健康リスクの考え方、発達段階と健康リスク、健康リスクへの対処		自分が行っている健康法と、その科学的根拠について調べる	
第7回 健康リスク要因とパーソナリティ 健康リスク要因としてのパーソナリティ、心疾患やがんとパーソナリティ、パーソナリティ		授業で実施したパーソナリティテストの分析・解釈を報告書にまとめる	
第8回 健康リスク要因と行動 健康を阻害する行動リスク要因、喫煙、依存・嗜癖、事故、リスク認知		自分が行っている健康阻害行動のチェックとリストアップ	
第9回 女性と健康 女性の健康と健康問題、母性に関する健康問題		女性の喫煙・飲酒に関する情報を収集し分析する	
第10回 高齢者と健康 高齢者の現状と健康概念、高齢者の自立と社会参加、スピリチュアルヘルス		高齢者の生き甲斐づくりと健康について考え意見をまとめる	
第11回 災害時の被災者の心理と支援 災害時の心理と支援の考え方		災害時の心のケアについての活動を調べてまとめる	
第12回 患者の心理と病気対処行動 病気の知覚とその対処、病気行動の自己調節過程、病気体験に関する心理的要因、病気体験の克服		自分の「病気体験」「病気行動」について振り返り整理する	
第13回 健康心理学の臨床的展開 肥満と糖尿病患者・心臓病患者・がん患者等の治療における健康心理学的介入		「がんの告知」の在り方について考えをまとめる	
第14回 医療場面でのコミュニケーション 医療コミュニケーション、よりよいコミュニケーションを目指して 関連するビデオ視聴とそれに基づ		授業で観たDVDをもとに、医療コミュニケーションの問題点を考え整理する	
第15回 ヘルスケアシステムの現状と将来の展望 日本のヘルスケアシステムの歴史、ヘルスケアシステムの現状と問題点、今後の問題		「健康心理学」で学んだことのポイントを整理する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	30% 15回の授業回数を3期に分け、それぞれの適切な時期に課題を提示し、レポートの提出を求める。各回10点の配点で評価する。		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	10% 授業での質問、発言等の積極的態度を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の授業では、前週に提示した課題を基に、教師-学生双方向の対話型授業を行う。学生からの活発な発言を求める。		
教科書	なし 授業内容と関連したプリントを毎回配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	島井哲志・長田久雄・小玉正博(編) 『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』 有斐閣アルマ		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	